

中学校第2学年 社会科 単元名「第一次世界大戦と日本」

1 本単元で人権教育を進めるにあたって

本単元は、民族運動の高まりと国際協調の動き、日本国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させることをねらいとする。

「我が国の国民の政治的自覚の高まり」については、大正デモクラシーの時期の政党政治の発達、民主主義思想の普及、社会運動の展開を取り扱い、水平社の結成など民衆運動の流れを、長い歴史の中で位置付けながら指導する。全国水平社の学習では、「解放令」後50年過ぎても差別は続き、それを打破するために差別されていた人々が自らの力で差別をなくすために立ち上がり、全国水平社を結成したこと、さらに、全国に拡大していったことを理解させる。

このような人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状についての知識を身に付けさせる学習を通して、同和問題をはじめあらゆる人権問題の解決を目指し、自ら立ち上がることや仲間の大切さ等の理解を深め、今後の生き方について考える学習にしたい。

2 単元の目標

第一次世界大戦の原因や概要について理解させ、帝国主義等の背景や現在まで続く民族問題についても関心を持たせる。また、日本の大正時代の様子について、大正デモクラシーや多くの民衆運動を通して調べたり、考えたりする態度を育てる。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

差別されていた人々が自らの力で差別をなくすために、水平社を結成し、その動きが全国に拡大していったことを理解し、人権の発展や人権侵害等に関する歴史や現状についての知識を身に付ける。(知識的側面)

4 指導のポイント

(1) 知的理解を図る上で大切にしたいポイント

- 社会運動が高まるまでの大まかな歴史の流れの視覚化と、一人一人の具体的なイメージの違いが見えるよう学習シートを工夫する。
- 厳しい差別の実態に終始せず、自ら立ち上がることの大切さや団結の力強さ、仲間の大切さに重点をおき、道徳や学級活動の時間などに関連させて自らの生き方について考えさせる。
- 本単元では、既習事項である賤称語を取り扱うため、社会科の授業のみの指導に終わるのではなく、人権教育主任等と連携しながら、事前に学年会等で学習内容について検討し、必要に応じて学級担任等の参観や帰りの会等での事後指導を行う。
- 小学校との連携を密にし、歴史学習の実態を的確につかみ、指導に活かすとともに、取組の成果や課題は必要に応じて情報提供する。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

① 自己存在感

個人思考の時間をしっかり確保し、ペアやグループでの発表の機会を設け、一人一人に役割を持たせる。

② 共感的人間関係

ペアやグループ、全体発表では、相手の意見の良いところを積極的に探させ、自分の考えと異なる意見については、その意見の良いところや学ぶべきところを認めた上で、自分の意見を伝えるようにさせる。

③ 自己選択・決定

人権学習等で学んだことを想起させたり、既習事項と関連付けたりして、自分自身の課題と重ねて考えさせる。

5 学習の流れ

(1) 指導計画（7時間取り扱い）

学習活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
1 第一次世界大戦 第一次世界大戦について、背景と経過、大きな被害について調べる。	○様々な資料を提示し、第一次世界大戦が、人類史上経験のない悲惨な結果を招いたことに着目させる。
2 ロシア革命 ロシア革命の背景と経過や、世界に与えた影響について調べる。	○ロシア革命の学習を通して、民衆の運動が国の体制を変えるまでに至ったことに気付かせる。
3 国際協調の高まり 第一次大戦後の国際社会の変化について調べる。	○大戦後、世界平和や民主シーの実現に向け世界は動いていったが、実はヨーロッパ中心のものであったことに気付かせる。
4 アジアの民族運動 アジアにおける民族運動について調べる。	○アジアで民族運動が高まった理由と民族自決の願いにも着目させる。
5 政党政治 民衆運動の高まりと政党政治について調べる。	○大正民主シーは政治的な運動のみならず、日本社会全体にも大きな影響を及ぼしたことに着目させる。
6 社会運動の広がり 大正民主シーの高まりと社会運動の広がりについて調べる。(本時)	○大正民主シーの風潮の中で、第一次世界大戦やロシア革命、米騒動等の影響を受け、労働運動や農民運動、女性運動、民衆運動などの社会運動が活発になったことに気付かせる。
7 新しい文化と生活 新しい文化と生活について調べる。	○現在の生活とのつながりや相違点について考えさせる。 ○震災の困難の中での虐殺について、起こった理由についても考えさせる。

(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例 (6 / 7 時間目)

目標

◇デモクラシーの高まりなどの影響を受け、多くの民衆運動がさかんになったことを理解することができる。

人権教育で育てたい資質・能力

◆差別されてきた人々が、自らの力で差別をなくすための運動を起こしていったことを理解することができる。

主な学習活動	○指導上の工夫・留意点	評価◇◆	備考
1 前時の学習を振り返る。 ・護憲運動・民本主義・政党内閣 2 本時の学習のめあてを知る。	○前時の学習の流れと語句の意味等を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> デモクラシーの高まりにより、世の中にどのような変化が生まれたのだろう </div>			
3 様々な立場の人々が、どのような行動をとったのか教科書等から調べる。【個人→ペア】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・労働者 ・農民 ・女性 ・アイヌの人たち ・差別に苦しんだ人々 </div>	○それぞれの行動について、「運動を起こした団体・人物」「求めた内容」の二つの視点でまとめさせる。 ○教科書の資料を使って、「平塚らいてう」や「メーデー」等の補足説明をする。		ワークシート
4 差別に苦しんでいた人々が、どのような行動をとったのか考える。 (1) 全国水平社について知る。 (2) 資料1・2から「全国水平社」の運動の内容を考える。【個人→ペア】	○様々な立場の人々の行動から、1つを取り上げて調べさせ、デモクラシーの高まりによる変化を具体的にとらえさせる。 ○解放令後も厳しい差別が続き、差別からの解放を求め、自ら立ち上がったことをおさえる。 ○「水平社宣言」を教師が読み、意味等を補足説明する。 ○それぞれの印象に残った言葉や気になった部分の違いを大切にしてい取り扱、差別され、苦しめられてもなお、「人間を尊敬することで人権を確立していこう」とする宣言文であることに気付かせる。		資料1 資料2 ワークシート
(3) 水平社宣言から当時の人々がどのような世の中を願っていたのか、考えたことをまとめ発表する。【ペア→グループ】	○他の苦しんでいる人々への励ましになったことから、社会を変えていく動きをつくっていったことに気付かせる。 ○グループ発表では、自分の考えと友達の考えを比較しながら、友達の意見を尊重した上で自分の意見を発表させる。		

	<p>◆自らの力で差別をなくすために水平社を結成し、団結して運動を広げ、全国に人権を確立しようとする動きが拡大していったことを理解する。</p>	
<p>5 デモクラシーの高まりによって、社会にどのような変化があったのか考えを自分の言葉でまとめる。 【グループ→全体】</p>	<p>○全国水平社の動きとの共通点を考えさせ、自分の言葉でまとめさせ、グループで考えを交流させる。 ◇大正デモクラシーの高まりの中で、第一次世界大戦やロシア革命、米騒動等の影響を受け、労働運動や農民運動、女性運動、民衆運動などの社会運動が活発になったことを理解する。 ○「もし自分がその時代に生きていたらどう行動するか」と投げかけ、当時の人々の行動と現在の自分の行動を関係付けて考えさせ、差別は自分たちの考え方や行動の在り方で解決できるという展望を持たせる。 ○社会運動の高まりがその後の普通選挙の実現など、様々な権利獲得につながったことをおさえる。</p>	

6 資料

資料①「差別とのたたかいをうったえる山田少年」

(参照)「新しい社会 歴史」 東京書籍 p.195

(参照)「中学社会 歴史」 教育出版 p.201

(参照)「社会科 中学生の歴史」 帝国書院 記載なし

資料②「水平社宣言（一部要約）」

(参照)「新しい社会 歴史」 東京書籍 p.195

(参照)「中学社会 歴史」 教育出版 p.201

(参照)「社会科 中学生の歴史」 帝国書院 p.197

【ワークシート】 広がる社会運動

1 デモクラシーの高まりの中、次の立場の人々はどのような行動をとりましたか。

人々	動き
労働者	
農民	
女性	
アイヌの人々	
差別されていた人々	

2 差別に苦しんだ人々は、どのような行動をとったのか調べましょう。

(1) 結成した団体

★ () (年)
【内容】

(2) 教科書の「水平社宣言」を読み、印象に残った言葉や気になった部分に線を引きましょう。また、理由も書きましょう。

【理由】

(3) 水平社宣言から当時の人々がどのような世の中を願っていたのか考えを書きましょう。

3 デモクラシーの高まりによって、社会にどのような変化があったのか、まとめましょう。

【参考】中学校社会科における同和問題にかかわる学習

- 学習のねらい
- 同和問題にかかわる各時代のことがらを、歴史の大きな流れや各時代の特色の中で理解する。
 - 差別を生み出し助長させてきた原因を諸資料に基づいて多面的・多角的に考える。
 - 差別に対する正しい認識を身に付けるとともに、差別をなくそうとする態度を養う。

【单元名】	【学習内容及びそのねらい】
中世の日本	
東アジア世界との関わり	室町文化 ○差別されていた人々が力を発揮し生み出した文化が、今日の生活にもつながっていることを知る。
↓	
近世の日本	
江戸幕府の成立	様々な身分と暮らし ○百姓・町人とは別に差別されていた人々が、社会的に必要とされる仕事や役割を担っていたことを知る。 ○武士の支配や確実な納税など、社会秩序の維持のために江戸時代の身分制度が確立されたことを知る。
産業の発達と幕府政治の動き	幕府政治の改革と社会の変化（百姓一揆と差別の強化） ○幕藩体制の基盤がゆらぎ、様々な統制を進める一方、差別されていた人々に対しても統制を強めたが、その中でこれらの身分の人々は助け合いながら生活を高めていったことを知る。
	幕府政治の行き詰まり（渋染一揆） ○差別されていた人々が差別の強化に反対して団結してたたかったことを理解し、その意義について考える。
↓	
近代の日本と世界	
明治維新	新政府の成立 ○「解放令」により、身分制度はなくなったが、人びとの差別はなくなり、根強く残った原因について考える。
第一次世界大戦と日本	社会運動の高まり ○差別を受けてきた人々が、自らの力で人間としての平等を勝ち取り差別からの解放をめざす運動を起こし、全国水平社を結成したことを理解し、その意義を考える。